



国保京丹波町病院は住民の方々にとって一番身近な医療機関として、かかりつけ医機能をより強化していこうと考えています。

現代の日本では、医師は専門医志向が強く、住民の方も専門志向が強い、といわれています。

しかし、体に異変を感じたからと言って、いきなりどの専門医を受診したらいいのか迷うこともあるのではないのでしょうか？

やはり、一番身近な医療機関で求められるべきは専門医療ではなく総合診療です。

まずは、かかりつけ医として何が異常なのか、専門医療が本当に必要なのか、適格に診療できることが必要です。

また、高齢になるほど複数の疾患を持っておられる方も多くいらっしゃいます。

国保京丹波町病院の常勤医は、初診時には的確な対応ができ、複数の疾患も診療できるように総合診療を提供できる資格を取得、もしくは取得を目指しています。内科も常勤医は総合内科と明記しました。まずは我々常勤医になんでもご相談ください。

今年も若い内科専攻医が当院で研修されています。

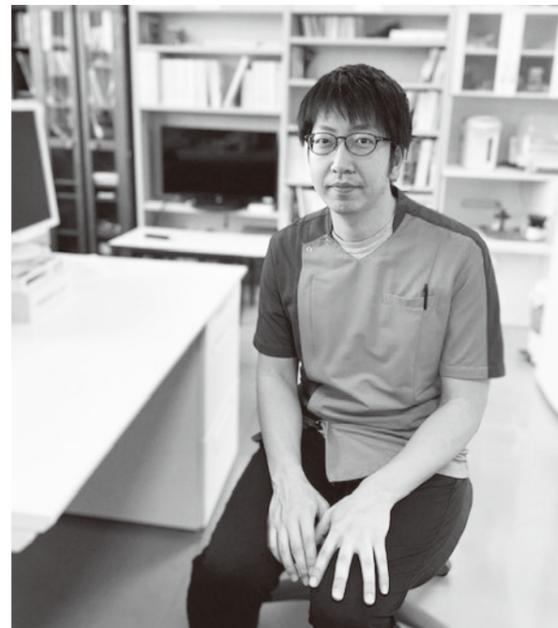
専攻医というのは内科専門医を目指す4年目の若い医師で、専門漬けにならない幅広い診療能力を持った医師を育てるために総合病院での研修だけでなく、へき地や地域での医療も研修されています。それぞれ3カ月の短い期間ですが、皆さんも将来の医師を育てるつもりで温かく、そして時には厳しく見守っていただきたい、と思っています。



「ワクチンは同時接種が大事!？」

小児期に接種すべきワクチンは大量にあることをご存知でしょうか。1歳までに6種類、計16回ものワクチン接種があります。1歳の誕生日を迎えてからも、たくさんのワクチン接種が予定されています。口ワクチンなど接種可能な期間が比較的短いものもこっそり混じっています。また、認定こども園での生活が始まると風邪症状がでてしまい、予防接種を打つタイミングが遅くなってしまふこともよくあります。予防接種が極端に打てていないと目をつけられることも…。悪いことだらけですね。そうならないためにどうすればよいか。それは、同時接種を進めることです。

母子手帳内に予防接種スケジュールがあるので、今一度接種忘れがないか確認してみたいかでしょうか。



国保京丹波町病院
月・火・金曜日の小児科担当、
国保京丹波町病院質美診療所所長
きたむら かずまさ
北村 一将 医師

京丹波町にお住いの皆さんが健やかに幸せに、「健幸」で暮らせるように…。
国保京丹波町病院では、病気になる前の「予防医療」を大切に
病気を患ってからもその人なりに幸せに暮らせるよう「地域包括ケアシステム」を
充実し町民一人ひとりの健幸Wellness—ウェルネス—を目指しています。

院長先生の Wellnessコラム

かき た ひで はる
垣田 秀治院長



新型コロナウイルス肺炎が世間を騒がし始めてから2年半が経過しました。

蒸し暑い梅雨が過ぎましたが、皆さんはマスクの着用など、どのように対応されているのでしょうか？

先日、政府は、屋外でのマスク着用については互いに十分な距離があり、会話もないのであれば必須ではない、しかし、屋内で密になる環境であったり、会話をするときなどは引き続きマスクを着用しましょう、との方針が発表されました。

確かに、屋外で一人で歩いているときにマスクをして、家の中やレストラン、居酒屋でマスクをせずに会話されている姿をみると、なにか違和感を感じます。

コロナ肺炎のことも随分解明されてきましたし、今の時期は熱中症予防も大切です。

マスクは必要に応じてつけたり外したり、マスク着用ともうまく付き合うことが大切だと思います。